



引き算の暗算の重要性

ご家庭でも積極的に練習に取り組んでいただけているおかげで、かけ算の定着が非常に進んでいます。

かけ算がしっかりと定着すれば、わり算の習得もスムーズになります。

4Qは、3年生以降の算数を見据えて、穴あけかけ算と引き算の暗算に取り組んでいきます。

3年生で習う「あまりのあるわり算」が、かなり複雑な処理が必要で難しいので、小学校の算数ではそれに向けて引き算を次の4つのレベルに分けて、3年生までに学ぶことになっています。

1年生

レベル1 繰り下がりのない引き算の暗算 (例: $7 - 3 = 4$)

レベル2 繰り下がりのある引き算の暗算 (例: $13 - 7 = 6$)

2年生

レベル3 2桁－1桁の引き算の暗算 (例: $45 - 8 = 37$)

3年生

レベル4 2桁－2桁の引き算の暗算 (例: $63 - 34 = 29$)

「あまりのあるわり算」でつまづく子の多くは、かけ算ではなく、レベル3や4の引き算に課題があります。

例えば $71 \div 9$ の場合、商の7が出た後に $71 - 63 = 8$ をすることで、「7あまり8」という答えを出すことができますが、 $71 - 63$ がなかなか計算できないと、一問一問に時間がかかって多くの問題を解けません。結果、解き方が完全に定着しないことが多いです。

ところが、重要な暗算にもかかわらず、2年生と3年生の足し算と引き算の暗算は、教科書としてはそれぞれ3時間程度しか配分されていないため、授業はあっという間に終わってしまいます。

(私も教えていてびっくりした覚えがあります)

新しく覚えることは少ないので教科書のページは少ないですが、とにかく反復練習をすることで、完全定着を図ることが必要です。

そのため、4Q末には暗算検定8級（できれば14級）の引き算を4分以内で解けることを目指していこうと思っています。

暗算検定8. () ばん なまえ ()

$46 - 1 =$ $37 - 3 =$ $41 - 5 =$ $70 - 7 =$

$29 - 1 =$ $46 - 3 =$ $50 - 5 =$ $99 - 8 =$

$52 - 1 =$ $94 - 3 =$ $72 - 6 =$ $40 - 8 =$

暗算検定14. () ばん なまえ ()

$56 - 11 =$ $87 - 43 =$ $58 - 25 =$ $50 - 37 =$

$69 - 21 =$ $76 - 33 =$ $30 - 25 =$ $59 - 28 =$

$42 - 31 =$ $91 - 63 =$ $84 - 36 =$ $60 - 38 =$

これも九九の習得がしっかりと進んでいるからこそできることです。

3年生になってからの九九を覚え直すのはかなり難しいため、ここまでは九九練習に最優先で取り組んできました。

九九は覚えさえすれば、ほぼ忘れることはないのです、今後は引き算に力を入れていきましょう。

～すでに14級を合格している子～

それぞれのクラスに2割ほどいますが、相当な計算力と集中力です。

この陰山式の計算学習は、計算力の向上以上に、「過集中」という状態を作り、子どもの脳の仕組み作り替えることを目的としているそうです。

その点でいうと、すでに目標を達成していると言えます。計算力以上に、ぜひそのすばらしい集中力に注目して褒めてあげてください。